

令和元年 9 月 19 日

各報道機関 御中

国立大学法人山梨大学

公開シンポジウム開催のお知らせ
「やまなしの山と自然に学ぶ～山梨大学が拓く山岳科学のフロンティア～」

山梨大学と静岡大学、信州大学及び筑波大学の4大学は、連携して日本初の山岳科学を学ぶことに特化した大学院修士課程を開設しています。

今回開催するシンポジウムでは、国内外で森林の再生や環境保全に携わってきたC.W.ニコル氏を講師に招き講演いただくほか、本学を中心とした4大学の連携による教育研究成果などをご紹介します。

つきましては、本シンポジウムを下記のとおり開催いたしますので、多くの方に参加いただくためイベント情報欄等でご紹介いただくとともに、当日取材をしていただきたくご案内いたします。

記

【日 時】令和元年 10 月 22 日（火・祝）13:00～17:00（12:00 開場）

【会 場】山梨県立図書館 1 階 イベントスペース（甲府市北口 2-8-1）

【内 容】

■第 1 部 講演

- ・「心に木を植える」C.W.ニコル氏（一般財団法人 C.W.ニコル・アフアの森財団理事長）
- ・「山の恵みの経済的価値を測る」渡邊幹彦 本学生命環境学部教授

■第 2 部 研究事例紹介等

- ・「山を守る人材の育成：山梨大学の取り組み」宮崎淳一 本学教育学部教授
- ・「森にしのびよる大気汚染物質とその影響」松本潔 本学生命環境学部准教授
- ・「千畳敷でさぐる地球環境の変化」石井雄太 本学大学院生
- ・「歴史の長い草原の価値：希少植物・蝶類の視点から」井上太貴 筑波大学大学院生

【参加費】無料

【定 員】300 名

【申込み方法】

下記問合せ先まで電子メールにて、参加者全員の氏名とフリガナ、代表者の E メールアドレスを記載の上、お申込みください。（先着順、定員に達し次第募集を締め切ります）

※詳細は、別添ご案内チラシをご覧ください。

（お問い合わせ先）
〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
山梨大学山岳科学特別教育プログラム
公開シンポジウム担当
E-mail : sangaku2019@yamanashi.ac.jp
TEL : 055-220-8339、055-220-8149

やまなしの山と自然に学ぶ ～山梨大学が拓く山岳科学のフロンティア～

山梨県は、県土の78%を森が覆い、四方を名峰が取り囲む国内有数の山岳県です。本シンポジウムでは、国内外で森林の再生や環境保全に取り組んでこられたC.W.ニコル氏をお招きし、身近な山や森の自然に学び、活かし、未来の子供たちに持続可能な形で引き継いでいくことの意義を学びます。また、山梨大学、静岡大学、信州大学および筑波大学が連携して実施している山岳科学に関する教育研究の成果を紹介し、山梨が誇る自然の価値や現状、そして、この自然と今後どのように付き合っていくべきかについて、市民の皆様と一緒に考えます。

【日時】 2019年 10月22日 (火) 13:00～17:00
(開場12:00)
【会場】 山梨県立図書館1階イベントスペース
【定員】 300名、申込先着順 (申込方法は裏面記載)

参加
無料

第一部 講演 13:15～
第二部 研究事例 14:55～
紹介など
ポスター発表など 16:15～

－第一部 講師－



C.W.ニコル氏 (基調講演)

作家・1940年イギリス南
ウェールズ生まれ。1995年
日本国籍取得。

カナダ水産調査局北極生物研究所の技官、環境局環境問題緊急対策官やエチオピアのシミエン山岳国立公園の公園長など世界各地で環境保護活動を行い、1980年から長野県在住。1984年から荒れ果てた里山を購入し「アファンの森」と名づけ、森の再生活動を始める。2005年、その活動が認められエリザベス女王から名誉大英勲章を賜る。2011年、

「アファンの森」が日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」に登録される。2016年、(社)国土緑化推進機構より「第6回みどりの文化賞」受賞。2016年、天皇、皇后両陛下がアファンの森をご視察された。

渡邊幹彦

山梨大学生命環境学部 教授

専門分野：開発経済学・環境経済学
主な研究テーマ：地域の自然資源を
有効利用した望ましい経済発展



主催：山梨大学山岳科学特別教育プログラム

<http://www.ccn.yamanashi.ac.jp/~sangaku/HP/index.html>

共催：筑波大学山岳科学学位プログラム・信州大学山岳科学教育プログラム・静岡大学山岳科学教育プログラム

ープログラムー

12:00 開場・受付開始

13:00~13:15 主催者挨拶

第一部 講演

13:15~14:10 基調講演「心に木を植える」 C.W.ニコル氏

(一般財団法人 C.W.ニコル・アフンの森財団理事長)

日本の森を愛するが故に日本に移り住んだC.W.ニコル氏。しかし、1970年代から原生林は伐採され、かつて日本人の生活に溶け込んでいた里山も放置されました。見捨てられた森からは、多くの種類の動植物が消えていったのです。C.W.ニコル氏は、1986年から荒れた森を自ら買取り「アフンの森」と名づけ、丹念に手入れを始めました。今では明るい陽射しが溢れる森となり、たくさんの生物が戻ってきています。その中に絶滅危惧種が53種います。生態系の頂点にいる熊、そしてフクロウの営巣も確認され、ヒナが育っています。また、東日本大震災で被災した東松島市の小学校が高台移転するにあたり、自然と共生することを学ぶ「森の学校」事業の手伝いをしています。森は人間にとって重要な資源であると同時に、心身を癒し、育む場所でもあるのです。

14:10~14:45 「山の恵みの経済的価値を測る」 渡邊幹彦(山梨大学生命環境学部 教授)

山梨県には、山の恵みがたくさんあります。紅葉や新緑などの景色、山菜やキノコなどの食べ物、おいしい水など、枚挙にいとまがありません。一方、世界を見渡すと、その日の収入を得るために、山の森林を伐採せざるを得ない人々がたくさんいます。過剰な伐採は、水源林を破壊してしまいます。水源林に、どのぐらいの経済的価値があるかわかれば、人々は、木を伐採するよりも、水源林と山の恵みである水を守る行動を取るかもしれません。どうすれば、経済的価値が測れるのかを解説して、私は、皆さんと一緒に、山の恵みをどうやって守っていくかについて、考えてみたいと思います。

14:45~14:55 休憩

第二部 教員・学生による研究事例紹介・話題提供

14:55~15:10 「山を守る人材の育成:山梨大学の取り組み」 宮崎淳一(山梨大学教育学部 教授)

山を知らなければ山を守ることはできません。静岡大・信州大・筑波大と連携して山梨大が取り組む教育・研究活動を紹介します。

15:10~15:30 「森にしのびよる大気汚染物質とその影響」 松本潔(山梨大学生命環境学部 准教授)

都市近郊に広がる森の多くは、大気汚染物質の影響を強く受けています。都市で発生した大気汚染物質がどのように輸送され、どのように森に降り注ぐのかを解説し、森の木々に与える影響を考えます。

15:30~15:45 「千畳敷でさぐる地球環境の変化」 石井雄太(山梨大学大学院生)

黄砂は車や洗濯物が汚れるなど負のイメージを持たれる方が多いと思いますが、海の生態系との密接な関係が指摘されています。黄砂は自由対流圏と呼ばれる上空に舞い上がり海まで運ばれます。本講演では自由対流圏中の黄砂を直接的に捉えることのできる木曾駒ヶ岳千畳敷における観測について紹介します。

15:45~16:00 「歴史の長い草原の価値:希少植物・蝶類の視点から」 井上太貴(筑波大学大学院生)

かつて日本中に広がっていた草原が姿を消し、多くの動植物が絶滅に瀕しています。中でも、縄文時代などから続く歴史の長い草原には、希少な植物や蝶類がたくさん暮らしていることがわかりました。

16:00~16:10 質疑応答

16:10~16:15 閉会挨拶

16:15~17:00 ポスター発表など

参加申込み

下記の問い合わせ先まで、電子メールにてお申し込み下さい。メールには、参加される方全員の氏名とフリガナ、代表者のEメールアドレス(PCからのEメールが受け取れるもの)をご記入ください。お申込みは定員に達し次第締め切ります。なお、ご提供いただいた個人情報は本シンポジウムの運営管理以外の目的では利用いたしません。

問い合わせ先

山梨大学山岳科学特別教育プログラム公開シンポジウム担当
E-mail. sangaku2019@yamanashi.ac.jp
Tel. 055-220-8339 (生命環境学部 岩田智也)
055-220-8149 (教育学部 宮崎淳一)

アクセス

会場 山梨県立図書館1階イベントスペース
〒400-0024 山梨県甲府市北口2丁目8-1

 電車でお越しの方

JR中央線および身延線で甲府駅下車、北口のペデストリアンデッキ(歩行者用専用道)を利用して徒歩3分

 お車でお越しの方

中央自動車道[甲府・昭和IC]より国道20号線、昭和通り、平和通りを経由、舞鶴通りの北側(5km、15分)